

研究・調査報告書

報告書番号	担当
89	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Utilization of residential alcoholism treatment in bipolar disorder. 双極性障害者によるアルコール依存症治療施設の利用	
執筆者	
Hall-Flavin DK, Schneekloth TD, Loukianova LL, Karpyak VM, Lesnick TG, Biernacka JM, Mrazek DA, Frye MA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Addict. 2011 Jan;20(1):40-4	
キーワード	
双極性障害、アルコール依存	
要 旨	
目的： アルコール依存症と双極性障害の併存者は高い割合で存在するにも関わらず、双極性障害患者のうち依存症治療に積極的に参加している人数や、アルコール摂取特性についてはほとんど知られていない。そこで本研究では、我々の治療施設でアルコール依存を認めた患者 588 人の診療記録を用いて調査した。	
方法： 研究デザインは後ろ向きコホート研究で、アルコール依存症の重症度の程度と退院時診断に注目して分析した。本研究対象のうち、5%がアルコール依存症と双極性障害の併存者だった。	
結果： 年間飲酒量は、アルコール依存症とうつ病(26.8 ± 13.9)や、アルコール依存症のみ(28.1 ± 13.2)に比べて、アルコール依存症と双極性障害の併存者(23.1 ± 17.7)では低かった。アルコール依存症と双極性障害の併存者は、1日飲酒量の最大量が高い者が多い傾向があり、双極性障害の女性(21.0 ± 11.5)の1日飲酒量の最大量は、他の診断をされたグループの女性に比べて有意に高かった。	
結論： コミュニティベースの調査では、アルコール依存症と双極性障害の併存者が多いにも関わらず、本研究では、アルコール依存症治療施設における双極性障害の患者は多くないことが示唆された。さらなる研究により、双極性障害患者のアルコール依存症治療施設利用を促進し、女性双極性障害患者による多量飲酒の関連を明らかにすることが求められる。	